

回 回復期リハビリテーション病棟協会では本機関誌の他に Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science (JJCRS) という協会公式学術誌をもっています。

JJCRS は 2010 年刊行であり、現在第 16 巻です。JJCRS は英文雑誌ですが、日本語を母国語とする著者は日本語で投稿します。論文の審査も日本語で行い、日本語論文が採用されてから初めて論文を英訳してもらい、英文論文として出版されます。

JJCRS は発刊当初からオンラインジャーナルであり、紙媒体はありません。また、アクセスフリーのため誰でも論文を読むことができます。採択された日本語論文も同時に公開していることから、英語が苦手であっても論文を読むのに苦労はありません。

回復期リハビリテーション病棟は日本が世界に誇れる独自の制度であり、現在病床数は 97,000 床余りです。

しかし、病床数に比してそこから発信される論文はまだまだ少ないのが現状です。回復期リハビリテーション病棟は大学病院には少ないため、日々多忙な臨床家にとっては論文執筆のハードルは決して低くはないと推測されます。ただし、最近は国も、診療報酬改定にあたってエビデンスを強く求めるようになりました。エビデンスはすなわち論文の質と量になります。新たな地域医療構想が模索される中で、回復期リハビリテーション病棟の役割とその有用性を示すためにも、論文による情報発信は極めて重要

です。

最近は AI の進歩により、言語のハードルが一気に低くなりました。以前は英語論文を執筆するためにはかなりの心構えが必要でしたが、最近は AI を使った英訳でもかなりよい英語になります。あと数年もすれば、英語 native の研究者が執筆した論文と同等の質の英文が一瞬で得られるようになるかもしれません。

そうなれば、きちんとしたロジックで日本語論文を作成する能力がむしろ重要になります。言語の

ハードルが低くなることは英語のコミュニケーションに苦勞する人にとっては歓迎すべきことです。

J J C R S は PubMed Central の審査に合格しており、PubMed での検索も現在では可能になっています。JJCRS にはまだ impact factor はありませんが、早期の取得を目指しています。取得には投稿論文数が多いこと、impact factor のある雑誌の掲載論文に JJCRS から多くの論文が文献として引用されることが必要です。

現在の JJCRS の論文採択率は約 63% であり、今年度は科学技術振興機構 (JST) からジャーナルコンサルティング事業のコンサルティング対象誌として JJCRS が採択されました。JST の力も借りながら impact factor 取得に向けて頑張りたいと考えています。ぜひ、JJCRS への論文投稿をお願いいたします。

巻頭言

JJCRS への論文投稿で 回りハ病棟の有用性の発信を



かがや ひとし
加賀谷 斉

当協会理事 JJCRS 編集委員会 委員長
(国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 副院長 医師)